

平成24年度 病害虫発生予察情報

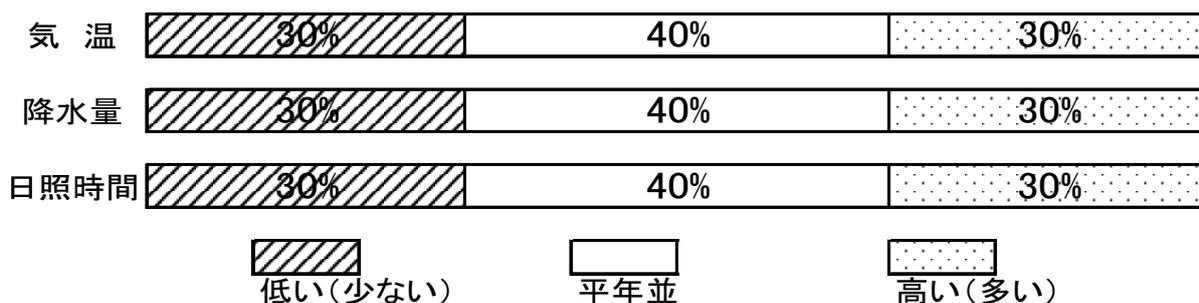
発生予報第4号（6月）

平成24年6月11日
島 根 県

予報の概要

区 分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		紋枯病	平年並～やや少ない		
		縞葉枯病	平年並		
		萎縮病	やや少ない		
		黄化萎縮病	平年並		
		ヒメトビウンカ	平年並		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		イネドロオイムシ	少ない		
		イネミズゾウムシ	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
				黒星病	やや少ない
				シンクイムシ類	平年並
ハマキムシ類	やや少ない				
ハダニ類	やや多い				
アブラムシ類	少ない				
カキ	カキ	円星落葉病	平年並		
		カキミガ	平年並		
		果樹全般	カメムシ類	やや多い	

中国地方1か月予報(6月9日～7月8日・広島地方气象台6月8日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、本田での発生は認めていない。
- ②5月31～6月8日に実施した補植用置き苗の調査（718圃場対象）で、発生圃場率が2.7%と高い（平年1.4%）。
- ③常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ④向こう一か月の気象は本病の発生をとくに助長しない。

- (2) 紋枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並～やや少ない
 予報の根拠
 ①前年の発生量が少なく、越冬菌量も平年に比べてやや少ないと考えられる。
 ②常習発生地では育苗箱施薬が普及している。
 ③向こう一か月の気象は本病の発生をとくに助長しない。
- (3) 縮葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①媒介虫のヒメトビウンカの発生量は平年並みと予想される。
- (4) 萎縮病
 予報内容
 発生地方 常習発生地
 発生量 やや少ない
 予報の根拠
 ①媒介虫のツマグロヨコバイの発生量は平年並みと予想される。
 ②近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。
- (5) 黄化萎縮病
 予報内容
 発生地方 常習発生地
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①向こう一か月の気象は本病の発生をとくに助長しない。
- (6) ヒメトビウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭/50株（平年5月下旬・0.03頭/50株）、発生圃場率は0%（平年5月下旬・1.8%）で発生量はほぼ平年並みである。
 ②6月10日までにネットトラップ(出雲市)、予察灯で捕獲されていない。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯、フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺量はほぼ平年並みである。
 ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (8) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯における誘殺量は平年並みである。
 ②5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.06頭（平年5月下旬・0.07頭/50株）、発生圃場率は5.8%（平年6.2%）で発生量はほぼ平年並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。
- (9) イネドロオイムシ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯における越冬世代成虫の誘殺量は平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生量、被害株率はほぼ平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月1日の巡回調査では、発病葉率1.7%(平年2.4%)であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月1日の巡回調査では、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 県予察圃場(出雲市)のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや少ない。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の発生量は寄生葉率4.3%(平年1.9%)、寄生虫数6.6頭(平年2.6頭)と平年に比べてやや多い(グラフ参照)。
- ② 向こう一か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

